

# あまくさ 暮らし観光 スクール

AMAKUSA KURASHI KANKO SCHOOL

2025年活動レポート



## 暮らし観光とは

旅人が「一時的な住民」としてまちに入り、  
日常の風景や営みにふれながら、その土地の“暮らし”を味わう旅のスタイル。  
喫茶店や路地、田園を歩き、暮らすように過ごす中で見えてくる穏やかな魅力——  
それを「暮らし観光」と呼びます。

これまでの観光は、名所や観光地を巡ることが中心でした。  
しかし最近では、地域の日常に触れながら自分なりの視点でまちの魅力を見つける、  
少し違った旅のかたちも生まれています。

そんな考えからはじまった「あまくさ暮らし観光スクール」。  
受講生はカメラを持ってまちを歩き、新しい旅のかたちを探します。  
これはそのレポートです。

# 暮らし観光スクール

## 講座とまち歩きの記事



### まちを歩き、まちを知る

2025年10月から「あまく暮らし観光スクール」が始まりました。メイン講師は東京の写真家MOTOKO。ゲスト講師には、東京のスティルウォーター、神奈川県真鶴町の泊まれる出版社「真鶴出版」の川口瞬さん、愛知県岡崎市の山崎翔子さん、佐賀県佐賀市の写真家・刑部信人さんをお招きしました。地域で活動するクリエイターの方々です。

講座は全4回。本渡の複合施設「ここらす」を会場に、午前は座学、午後はまち歩きという構成で行われました。第1回はスティルウォーターによる「わたしの好き」を深める対話、第2回は川口さんによる「真鶴出版」の活動やまち歩きなどの取り組み、第3回は山崎さんによる岡崎での暮らし観光と地図づくり、第4回は刑部さんによる地域で

写真を撮る面白さについてのお話でした。午後のまち歩きは、本渡の中心部を散策。銀天街や小松原エリアを巡り、額縁屋や花屋、印刷所などを訪ねました。普段は車で通り過ぎる場所も、カメラを持って歩くと素敵に見えてきます。会場に戻ってからは講評会。受講生それぞれの視点で撮られた写真を見ながら、講師がコメントしていきます。同じ場所で撮影しているのに、写真は驚くほど違って見えます。まだ知らない天草の魅力に気づきました。講座を通して受講生同士のつながりも生まれ、「やってみよう」と行動を起こす人も出てきました。半年という短い期間でしたが、実りの多い時間となりました。



- スポット一覧
- 1 小松原区自治公民館
  - 2 岩崎モータース
  - 3 谷川印刷/誠文社印刷
  - 4 祇園橋
  - 5 蜂楽饅頭 本渡店
  - 6 本渡諏訪神社
  - 7 アクセサリーショップコイケ
  - 8 松美堂額縁店
  - 9 田中花屋
  - 10 本屋と活版印刷所の屋根裏



### 山崎翔子 | サンセットカフェ

天草西海岸の高浜にある「SUNSET CAFE」。透き通る海を望む白い木造の建物は、もともと海の家。天草出身の田口あかねさんは、熊本地震をきっかけにUターン。その後、この場所でのちにパートナーとなる玉城悠生さんとの出会い、リノベーションを経てカフェへと生まれ変わりました。山崎さんは岡崎で「エソテリック」というカフェを営んでおり、興味を持って訪問。やさしい味のラテをいただきながらカフェの話で盛り上がり、気づけばカメラを手に撮影へ。高浜の海辺で、おだやかな交流の時間が流れました。

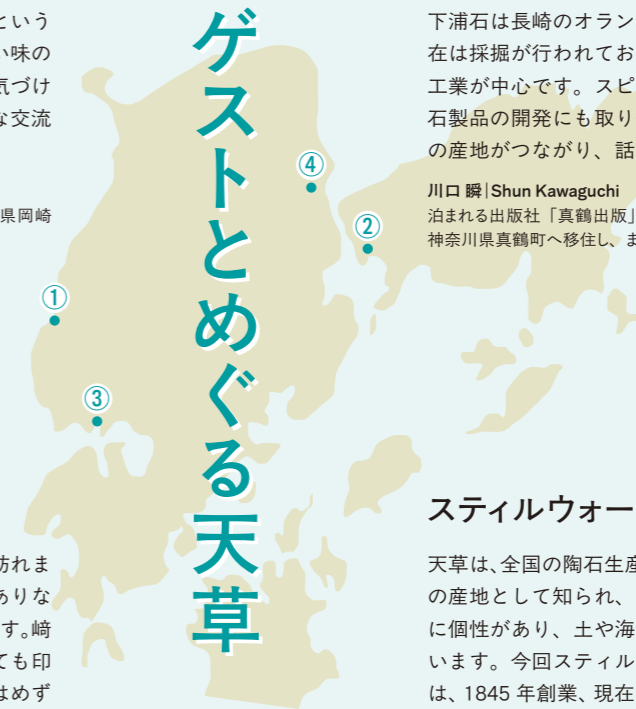
山崎翔子 | Shoko Yamazaki  
東京都出身。武蔵野美術大学卒業。器の企画販売を経て愛知県岡崎市へ移住。2022年、カフェ「esoteric」を開業。



### 川口瞬 | 下浦石材業推進会

川口さんが住む神奈川県真鶴町は、平安時代から続く石のまちです。一方、天草にも「下浦石」があり、石材業が盛んです。「下浦石材業推進会」を訪ねて驚いたのは、川口さんと親しい真鶴の「亀川石材」と、下浦の「黒川保石材」が、岡崎市での修行時代からの友人だったこと。下浦石は長崎のオランダ坂などに使われた石です。現在は採掘が行われておらず、さまざまな石を加工する石工業が中心です。スピーカーやマグカップなど、新しい石製品の開発にも取り組んでいます。真鶴と下浦、二つの産地がつながり、話が弾みました。

川口瞬 | Shun Kawaguchi  
泊まれる出版社「真鶴出版」代表。雑誌「日常」編集長。2015年に神奈川県真鶴町へ移住し、まちの魅力発信に取り組む。



## ゲストとめぐる天草

### 刑部信人 | 崎津集落

刑部さんとともに、世界文化遺産「崎津集落」を訪れました。天草西海岸にある崎津は、静かな漁師町でありながら、潜伏キリシタンの歴史を今に伝える場所です。崎津諏訪神社の鳥居越しに望む崎津教会の風景はとても印象的で、当時の暮らしに思いを馳せます。礼拝堂はめずらしい畳敷き。港をのんびり歩いていると、天然塩「ロザリオの塩」を作るご主人が声をかけてくれ、この土地の話聞かせてくれました。人のあたたかさに触れながら、地域の魅力をどんな写真で伝えていけるのかを考えたつ、崎津を後にしました。

刑部信人 | Nobuto Osakabe  
写真家。静岡県生まれ。東京工芸大学写真学科卒。2022年、日暮らし設立。佐賀市へ移住。写真集「花火」『HOLIDAY』(FOIL)。



### スティルウォーター | 丸尾焼

天草は、全国の陶石生産量の約8割を占める「天草陶石」の産地として知られ、多くの窯元があります。それぞれに個性があり、土や海の色を思わせる器が生み出されています。今回スティルウォーターのメンバーが訪れたのは、1845年創業、現在6代目が伝統を受け継ぐ老舗「丸尾焼」。以前訪れたメンバーもあり、「どうしても!」ということで再訪しました。モダンな建物には多彩な器が並び、ゆったりとした空間が広がっています。金沢弥和さんをはじめスタッフの方々に温かく迎えていただき、歓談しながら器を選ぶ時間となりました。

スティルウォーター | stillwater co., ltd.  
青木佑子・白石宏子・村田麻実らによるコミュニケーションデザインを手がけるチーム。対話を軸に、コンセプト設計や、企画編集を行う。

# 受講生が見つけた天草



## 「天草を好きな自分」でいること 宮田佳奈さん

宮田佳奈さんは、高校進学を機に天草を離れ、熊本、福岡、東京で経験を重ねてきました。充実した日々を送りながらも、「自分が本当に想いを注げることは何だろう」と考えるようになります。思い浮かんだのは、いつか帰りたいと思っていた故郷・天草でした。暮らし観光スクールに参加し、天草で活動する人たちと出会い、まちを歩きながら新しい魅力を発見。共通の想いを持つ仲間との出会いが後押しとなり、熊本へのUターンを決意しました。「天草を好きな自分」でいることがいちばん楽しい。そんな気持ちを胸に、地域との関わりを深めています。



※写真はすべて受講生が撮影。

## あまくさの物語を描く 山下真由美さん

天草出身のイラストレーター・グラフィックデザイナーの山下真由美さんは、天草の民話や文化を未来へ伝える活動「あまくさ民藝舎」で、絵本づくりや、ひょうたんを使ったこけしなどの作品制作に取り組んでいます。暮らし観光スクールには第2回から参加。まち歩きを通して、知らなかった天草の歴史や土地の物語にあらためて出会い、このまちの魅力を再発見する時間となりました。地域の祭り「繭姫通りおんなの夜祭り」では、ポスターや衣装の制作も手がけながら、天草の文化や物語を表現し、伝えていく活動を続けています。



## まちのお店と出会う 宮崎妙さん

大阪出身のグラフィックデザイナー・宮崎妙さんは、13年前に天草へ移住し、自然豊かな暮らしを楽しみながら制作活動を続けています。暮らし観光スクールのまち歩きで銀天街を歩く中、額縁のお店「松美堂」と出会いました。その後、額縁を求めてお店を再訪します。自身の作品をより良く見せたいと店を訪ね、店主と一緒に額縁を選ぶ時間は、作品と向き合う豊かなひとときに。仕立てた額装の作品はイベントでも好評を得ました。まちのお店や人との出会いが、天草での暮らしや制作の楽しさをさらに広げてくれる体験となりました。



## 鬼池ローカルフォト 佐藤静香さん

三重県出身の佐藤静香さんは、東京でカメラマンとして活動した後、地域おこし協力隊として天草に移住しました。現在は写真活動を続けながら、本渡の第一映劇の上にある「珈琲と酒とプリシラ」の店長も務めています。そんな佐藤さんが近年取り組んでいるのが「鬼池ローカルフォト」。毎年2月から3月に開催される「鬼池ひなの会」に合わせ、まち歩きをしながら写真を撮るイベントです。3回目を迎えた今年は、暮らし観光スクールをきっかけに若い参加者も増え、一番の盛り上がりを見せました。写真を通して天草の魅力を伝える活動を続けています。

あまくさ暮らし観光の取り組みをnoteで発信しています。ぜひご覧ください。



暮らし観光スクールは、写真家MOTOKOが企画・監修しています。

MOTOKO | 写真家。1966年大阪生まれ。小豆島カメラをはじめ「ローカルフォト」「暮らし観光」を提唱し、全国各地で地域プロジェクトを展開。

主催 天草市観光振興課  
企画運営 stillwater(スティルウォーター)/MOTOKO  
お問い合わせ 天草市観光振興課  
TEL:0969-32-6787 Mail:kankou-a@city.amakusa.lg.jp

## 受講生が見つけた天草



### 「天草を好きな自分」でいること 宮田佳奈さん

宮田佳奈さんは、高校進学を機に天草を離れ、熊本、福岡、東京で経験を重ねてきました。充実した日々を送りながらも、「自分が本当に想いを注げることは何だろう」と考えるようになります。思い浮かんだのは、いつか帰りたいと思っていた故郷・天草でした。暮らし観光スクールに参加し、天草で活動する人たちと出会い、まちを歩きながら新しい魅力を発見。共通の想いを持つ仲間との出会いが後押しとなり、熊本へのUターンを決意しました。「天草を好きな自分」でいることがいちばん楽しい。そんな気持ちを胸に、地域との関わりを深めています。



### まちのお店と出会う

宮崎妙さん

大阪出身のグラフィックデザイナー・宮崎妙さんは、13年前に天草へ移住し、自然豊かな暮らしを楽しみながら制作活動を続けています。暮らし観光スクールのまち歩きで銀天街を歩く中、額縁のお店「松美堂」と出会いました。その後、額縁を求めてお店を再訪します。自身の作品をより良く見せたいと店を訪ね、店主と一緒に額縁を選ぶ時間は、作品と向き合う豊かなひととき。仕立てた額縁の作品はイベントでも好評を得ました。まちのお店や人との出会いが、天草での暮らしや制作の楽しさをさらに広げてくれる体験となりました。



### あまくさの物語を描く

山下真由美さん

天草出身のイラストレーター・グラフィックデザイナーの山下真由美さんは、天草の民話や文化を未来へ伝える活動「あまくさ民藝舎」で、絵本づくりや、ひょうたんを使ったこけしなどの作品制作に取り組んでいます。暮らし観光スクールには第2回から参加。まち歩きを通して、知らなかった天草の歴史や土地の物語にあらためて出会い、このまちの魅力を再発見する時間となりました。地域の祭り「蘭姫通りおんなの夜祭り」では、ポスターや衣装の制作も手がけながら、天草の文化や物語を表現し、伝えていく活動を続けています。



### 鬼池ローカルフォト

佐藤静香さん

三重県出身の佐藤静香さんは、東京でカメラマンとして活動した後、地域おこし協力隊として天草に移住しました。現在は写真活動を続けながら、本渡の第一映劇の上にある「珈琲と酒とプリシラ」の店長も務めています。そんな佐藤さんが近年取り組んでいるのが「鬼池ローカルフォト」。毎年2月から3月に開催される「鬼池ひなの会」に合わせ、まち歩きをしながら写真を撮るイベントです。3回目を迎えた今年は、暮らし観光スクールをきっかけに若い参加者も増え、一番の盛り上がりを見せました。写真を通して天草の魅力を伝える活動を続けています。

暮らし観光スクールは、写真家MOTOKOが企画・監修しています。

MOTOKO | 写真家。1966年大阪生まれ。小豆島カメラをはじめ「ローカルフォト」「暮らし観光」を提唱し、全国各地で地域プロジェクトを展開。

主催 天草市観光振興課  
企画運営 stillwater(スティルウォーター)/MOTOKO  
お問い合わせ 天草市観光振興課  
TEL:0969-32-6787 Mail:kankou-a@city.amakusa.lg.jp

※写真はすべて受講生が撮影。

# あまくさ 暮らし観光 スクール

AMAKUSA KURASHI KANKO SCHOOL

2025年活動レポート



## 暮らし観光とは

旅人が「一時的な住民」としてまちに入り、

日常の風景や営みにふれながら、その土地の“暮らし”を味わう旅のスタイル。喫茶店や路地、田園を歩き、暮らすように過ごす中で見えてくる穏やかな魅力——それを「暮らし観光」と呼びます。

これまでの観光は、名所や観光地を巡ることが中心でした。しかし最近は、地域の日常に触れながら自分なりの視点でまちの魅力を見つける、少し違った旅のかたちも生まれています。

そんな考えからはじまった「あまくさ暮らし観光スクール」。受講生はカメラを持ってまちを歩き、新しい旅のかたちを探します。これはそのレポートです。

あまくさ暮らし観光の取り組みをnoteで発信しています。ぜひご覧ください。

